◆ 平成 25 年度（後期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日　時	実施場所	実　施　内　容
人間文化学部 国際文化学科	学科長 高等教育推進部門学科委員 学科教務委員	①10 月 ②11 月	①1212 会議室および演習室 ②1212 会議室およびラーニングコモンズ	テーマ　カリキュラム見直しに係るアンケートの実施とカリキュラムマップを題材としたファシリテーション研修 参加者　①1212 会議室および演習室 ②1212 会議室およびラーニングコモンズ 実施内容　①カリキュラムの内容検討・見直しの継続（学科教務ワーキングおよび毎月学科会）。10 月，学科の専門科目や大学生活全般を内容として 3，4 年生向けにアンケートを実施した。また，時間割作成上の問題を確認する意味で最も配当科目が多い 2 年生向けに時間割アンケートを実施した。 ②カリキュラムマップ（履修モデル・教育プログラム）を題材としたファシリテーション研修の実施。１１月に，教員向けにポートフォリオ，ディプロマポリシーの面からアンケートを実施した。 簡単な状況報告 ①学生・教員のアンケート結果を分析し，専門科目を「国際理解」「文化研究」「コミュニケーション」の大枠でまとめることとした。さらに教育プログラムの検討を継続する。 ②ファシリテーション研修は，カリキュラムマップや履修モデルを題材とし，外部講師も招いて検討を重ねた。方向性を確認することはできたが，多様性を寛容する学科の特性をどのようなモデルで示すのが最適かは結論を得るまでには至らなかった。
経営情報学部 経営学科	粟島　浩二 平野　実 和田　崇	平成 25 年 10 月 3 日（木） ４時限	大講義室 （2143 講義室）	テーマ　企業との連携による新たな学際的講義構築への取り組み 参加者　マーケティング論　102 名・組織行動　13 名　・地域マネジメント論 57 名　：合計　172 名 簡単な状況報告 マツダ（株）様との連携授業を 1 コマ開講し，経営情報学部共通科目および経営学科専門科目 3 科目（マーケティング論，組織行動論，地域マネジメント論）で共通のケーススタディとした。 実際の企業経営の現場の話を聞く機会となったことだけではなく，ひとつのケーススタディを複数の異なる学術的視点から概観することは，非常にユニークな学際的講義の開講であったといえる。学生の授業に対する感想も好評であった。（自由記述式出席カードの提出による）

実施主体	コーディネーター	日　時	実施場所	実　施　内　容
生命環境学部 生命科学科	学科長 佐藤之紀	平成 26 年 3 月 7 日（金） ～ 平成 26 年 3 月 14 日（金）	メールによる	テーマ　学生を飽きさせないための工夫 参加者　6 名の投稿内容による 簡単な状況報告 　メール FD（教育改善）“学生を飽きさせないための工夫”を実施した。生命科学科の先生方が行っている“学生を飽きさせないための工夫”をメールで上記実施日に記載されている締切までに指定先に送信していただき，学科内で共有することにより，相互の指導方法を考えるきっかけとした。また，退職予定の先生方にも，残る教員へ参考となるご助言をいただけますことを期待して声かけをした。 　講義等で学生を飽きさせない，研究を飽きさせない，活動を飽きさせない，という観点から，物事を継続させる指導のノウハウをお寄せいただき，字数は規定しなかった。期日後に集計して，原則として，そのままの文で全員に公開予定である。匿名にしたい場合には，その旨を記してもらい，その場合には氏名を入れずに公表する。公表物を参考として，各先生方により，あげられた工夫を参考に次期の講義等や研究室での学生指導に活用していただく様に要請した。 　各先生方から寄せられた工夫の骨子は，次の通りであった。１．身近な内容やどんなところが役に立つのかがわかるように指導した。２．授業時間を分け，具体的には 20～30 分毎を目安に，質問を受付，学生同士の意見交換の時間を設け，集中できるように時間を小分けにした。あとは，良い悪い関係なく結果が出たら褒めた。という工夫も報告された。 　以上の内容は，FD（教育改善）や FD(指導改善)の範疇に留まらず，学内の各種委員会での会議の進行にも大いにあてはまり，会議内容が学生指導と密接に関わることや会議の能率化などをはかる必要が山積している。

実施主体	コーディネーター	日　時	実施場所	実　施　内　容
保健福祉学部 看護学科	山中　道代	平成 26 年 2 月 4 日（火） 13：00～16：00	保健福祉学部 地域連携センター（4102）	テーマ　意欲ある学生を見抜くための面接技法を身につける 参加者　26 名（看護学科 23 名，他 3 名） 簡単な状況報告 講師：採用コンサルタント　稲田行徳先生　　目的：面接員スキル UP 冒頭，参加者の中から 3 人を選出し面接のロールプレイングを実施した。実施内容を基に，自らの面接方法について振り返った。その後，自分たちより若い大学生や高校生がリラックスして話ができるためのスキルや，相手が伝えようとしていることを非言語的な情報から得ることについて学んだ。最後に，全員が講義内容をふまえ，面接のロールプレイを行うことで学びを深めた。 講義の内容は，入試における面接だけでなく，学生との通常の面談時にも使えるテクニックであり，学生と上手に関わるための技術を身につけることができた。
	松森　直美	①平成 25 年 7 月 30 日（火） ②9 月 12 日（木） ③10 月 21 日（月） ④11 月 15 日（金） ⑤12 月 17 日（火） ⑥平成 26 年 2 月 24 日（月） ⑦3 月 14 日（金）	保健福祉学部 2416 会議室又は 2210 会議室	テーマ「ナイチンゲール–心に効く言葉–」抄読会 参加者　①10 名②9 名③10 名④10 名⑤10 名⑥9 名⑦10 名　各回 30 分程度，計 7 回実施 簡単な状況報告 平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月の間，7 回にわたって実施した。書籍を音読した後，それぞれが内容について感じたことを語り合うことで，人と向き合うことや看護に対する姿勢について考え直す機会となった。
	看護学科実習 検討会担当教員	①平成 25 年 10 月 11 日 10：40～， ②11 月 15 日 14：45～ ③12 月 13 日 14：40～ ④平成 26 年 1 月 17 日 14：40～ ⑤2 月 5 日 16：30～ ⑥3 月 11 日 14：40～	2416 会議室	テーマ　看護学科臨地実習教育の継続評価～コミュニケーションスケール自己評価の作成と実習におけるコミュニケーション能力の経年的変化の検証～ 参加者　①8 名　②9 名　③9 名　④9 名　⑤9 名　⑥9 名 簡単な状況報告 平成 25 年 4 月に開催した実習指導者協議会で，臨床指導者と大学教員が「新人看護職員の早期離職防止のための協力体制」について，グループワークをし，議論を行なった。今後の強化する課題として，学生の学ぶ姿勢，コンピテンシーの育成，自己分析力，人間関係力，コミュニケーション力，精神的強さ，自分を成長させていく力の育成の必要性が示唆された（協議会議事録より抜粋）。平成 25 年 5-6 月回実習検討会議にて，その課題にどのように取り組むかについて議論した。その課題へ取り組むために，実習でのコミュニケーションスキルだけでなく学生として学ぶ姿勢や態度などを含む平成 21 年度現代 GP「ヘルスサポーターマインドの発達支援」コミュニケーションスケールを改変し，平成 25 年 8 月コミュニケーションスケール自己評価表を作成した。活用方法として，各学年の臨地実習の開始時と終了後に自己評価し，経年的に学生自身がコミュニケーション技術をどのように向上しているか，ポートフォリオとして使用してもらうこととした。平成 25 年 9 月より後期開催の実習前後で看護学科 1 年次～3 年次生はコミュニケーションスケール自己評価表を活用した。 そのほかの成果として，平成 26 年度臨地実習要綱，平成 26 年度看護学科実習計画を作成した。臨地実習要綱には，SNS における個人情報の取り扱いの留意点を検討し記載した。 【次年度の課題】①臨地実習教育（コミュニケーションスキル自己評価）の継続評価と公表の検討を行う。②平成 27 年度臨地実習要綱，平成 27 年度実習計画案を作成する。③SNS における個人情報取り扱いを啓発する。④平成 26 年度より統合実習が開始するにあたり，平成 26 年度臨地実習が円滑に運用できるよう検討する。⑤各臨地実習施設の環境の充実を図る。⑥実習指導担当者協議会を開催し，臨床指導者との連携を図り，看護教育の向上・発展に生かしたい。

保健福祉学部 理学療法学科	学科長 田中　聡	①10 月 23 日（水） ②11 月 27 日（水） 9 時～9 時 30 分 ③12 月 25 日（水） 9 時～9 時 30 分	①②ともに 2416 会議室。 ただし，①のワークショップのみ 2313 教室	テーマ ①学生の学内および学外（臨床実習）での学習支援 ②学科教員の教育方法論に関する知識・技術の向上 参加者 ①学科全教員（12～15 名）「ワークショップ」学科教員 10 名＋臨床実習指導者 26 名 ②学科全教員（12～15 名） 簡単な状況報告 10 月 23 日（水）健康と病の語りデータベースの教育的活用－「患者の病の語り」を講義に取り入れて（担当：田中聡） 11 月 27 日（水）医療系大学生の SNS 利用の現状について（担当：積山和加子） 12 月 25 日（水）協調学習－ジグソー法の紹介（担当：長谷川正哉）
保健福祉学部 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ障害学科	渡辺　眞澄 津田　哲也	①平成 25 年 11 月 25 日 12:10～13:00 ②12 月 12 日 12:10～13:00 ③平成 26 年 2 月 21 日 12:10～13:00 ④3 月 20 日 12:10～13:00	1309-10 演習室	テーマ 教員および実習指導者の研究・教育方法の共有と向上 参加者 おおむね 15～20 名 内容 ①耳内嚥下音および F-SAS センサーによる非侵襲的な嚥下検査の可能性（土師知行　先生） ②舌運動のもたらす音声の個人性と共通性（竹本浩典 先生　独立行政法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所 多感覚・評価研究室　研究員） ③数値流体力学(CFD)を用いた血流動態への応用（大西英雄　先生） ④就学移行支援に向けて保育所・幼稚園で実施する発達評価の試み（玉井ふみ 先生） 簡単な状況報告 11 月 25 日，2 月 21 日，3 月 20 日の会は，学科教員が行っている研究の紹介と教員同士の意見交換が行われた。12 月 12 日の会では，ユニバーサルコミュニケーション研究所の竹本先生による最新の研究紹介の後，教員と意見を交換しあった。
保健福祉学部 人間福祉学科	江本　純子	①9 月 18 日ほか 9 月は月 1 回 ② 9 月 18 日ほか月 1 回 ③9 月 25 日ほか 9 月～12 月　月 2 回 ④9 月 18 日ほか月 1 回 ⑤9 月 18 日ほか月 1 回 ⑥10 月 29 日	4102 会議室ほか	テーマ 福祉を学ぶ学生の入学から卒業に至るまでの包括的支援 参加者 ①7 名　②8 名　③7 名　④社会福祉等実習会議　12 名，精神保健福祉等実習会議　8 名 ⑤20 名 ⑥8 名 簡単な状況報告 ①入試対策等会議 ②チューター学生相談等会議 ③就職活動国家試験対策等会議 ④社会福祉等実習会議・精神保健福祉実習会議 ⑤効果的な授業のあり方と評価等に関する検討(含ピアレビュー) ⑥ＦＤ研修「理論と実践とを結ぶ福祉教育」 人間福祉学科では，学生の入学から卒業後に至るまで一貫した支援を実施すべく，平成 25 年度から 6 つのチームを組み，会議を開催している。今年度前期の FD 活動は，このうち，入試対策等会議，チューター学生相談等会議，就職活動国家試験対策等会議，社会福祉等実習会議，精神保健福祉等実習会議が中心になって行う詳細な検討を主軸にして展開した。方法としては，各会議がそれぞれの目的に従った活動の提案をし，詳細について，必要があればさらに小グループを形成して検討・協議し，学科会議内で報告したり，必要があれば最終協議の上決定した。具体的には，入試対策等会議が入試状況分析と今後の入試制度についての検討を，またさらに学科内に人間福祉後援等会議を編成し，FD 事業・倫理利益相反・教育地域福祉・教学・広報・CMS 担当の事業を実施している。